

『海 ～ビーグル号で海たんけん』

高久 至 // 写真・文 アリス館



「日本中の海を、自分の目で見てみたい」

ゆめ
夢をかなえるため、ぼくは車を手に入れて、寝とまりできるように改竄した。車の名前は、ビーグル号。日本の海はとってもゆたか。いろいろ

なかんきょうがあり、たくさんの生き物がいる。さあ、ビーグル号といっしょに、日本中の海をたんけんしてみよう！

『煙のように消えるねこ』

リンダ・ニューベリー // 作 田中 薫子 // 訳

丹地 陽子 // 絵 徳間書店



新しい家に引っこしてきたサイモンは、となりの家の庭で、庭の草花全てに名前をつける変なおばあさんと、そのまわりにたくさんのねこが集まっているふしぎな光景を見かける。

しかし、ブルーというねこは、おばあさんの前にあらわれたかと思うと、煙の^{けむり}ように消えてしまった。いったい、ブルーは何者なのだろうか。

『巨石運搬! ～海をこえて大阪 城へ』

鎌田 歩 // 作 アリス館



海にうかぶ島の岩山に、人が集まってきます。足場を組み、道をきりひらき、石を切り出す準備が進みます。切り出された石は、人の力だけで運ばれ、船に^{おおさか}乗せられ、海をこえて大阪

をめざします。今から400年ほど前、大阪城の石がきに使われた巨石の旅を、横に広がるしかけつきの画面で楽しくしょうかいする絵本です。

『おばあちゃんのあかね色』

楠 章子 // 作 あわい // 絵 佼成出版社



あん
杏のおうちにおばあちゃんがひっこしてくるようになりました。認知症^{にんちしょう}になり、一人でくらすことがむずかしくなったのです。おしゃれでやさしい大すきなおばあちゃんでしたが、今のおばあ

ちゃんは少しちがっていて…。杏は、おばあちゃんが^{あわい}おばあちゃんらしくいられるように、ちょっとした手つだいをすることにしました。

夏休みに すすめる本

3・4年生



発行 東金市立東金図書館

〒283-0068 東金市東岩崎 1-1

TEL 0475 (50) 1190

『ライオン』

ウィリアム・ペーン・デュボア//文・絵
まさき るりこ//訳 瑞雲舎



むかし、雲の上のきゅうでんで、天使たちが動物を考えて地上におくりこんでいました。ある日、天使のフォアマンが「ライオン」という名を思いつきえがいた絵は、首に羽のはえたカラフルで小さなライオンでした。フォアマンは、うつくしくてかんぺきなライオンをえがくことができるかな？

『せかいでさいしょにズボンをはいた女の子』

キース・ネグレー//作 石井 睦美//訳
光村教育図書

「男の子の ふくを きているんじゃないわ」
「わたしは わたしの ふくを きているのよ！」



今ではだれでも好きな服を着られる。けど昔々、女の子が着られるのはきゅうくつなドレスだけで、ズボンをはいたらおかしいって言われてたなんてしんじられる？

『クジラがしんだら』

江口 絵理//文 かわさき しゅんいち//絵
藤原 義弘//監修 童心社



これはそんな時代にはじめてズボンをはいた女の子、メアリーのお話。

『きょうりゅうレントゲンびょういん』

キョン・ヘウォン//ぶん・え こまつ ようこ//やく
真鍋 真//監修 パイインターナショナル



恐竜たちの悩みをレントゲン写真で解決！体の不思議を骨格で読み解くから、化石を見るのが楽しくなる！ここは体の不調を訴える恐竜がつぎつぎとやってくる、不思議な病院。恐竜たちをレントゲン撮影すると、それぞれの恐竜の体のつくりや骨格が映し出され…。恐竜たちの体の作りや特徴を楽しく解説。化石を見るのがさらに楽しくなる科学絵本。

『モジモジばあは、本のおいしゃさん』

仁科 幸子//作 文溪堂



はたらきアリのアンティとアントンは、迷いこんだ図書館で、モジモジアリのモジモジばあに会います。

モジモジアリの仕事は、くたびれた本をみつけて元気にさせること。アンティたち

には、本のタイトル文字をきれいにする仕事を見せられました。さあ、どんな方法できれいにするのでしょうか。

『ホタルの光をつなぐもの』

福岡 伸一//文 五十嵐 大介//絵 福音館書店



女の子が小川でホタルの幼虫をつかまえた。家でホタルを育てるにはエサになる貝も、藻も、石も、水の流れも、太陽の光も持って帰らなければならない。でも、それだけではなく…。ホタルがすむ小川の環境から途方もない時間の流れまで、自然の中にあるつながりと力について、やさしく語りかける。